

SSKO

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・〒161東京都

電話・

送金先・郵便振替口座・

加入者名・東腎協

83年 4月25日

No. 46

透析の心得

私は女の新患さんに言う。

「透析は精神力が七分、食事は口迄、人は持って来てくれるが、それを食べるかどうかは自分。これが、闘病の第一歩で、自分の存在の大切さを考え、後をふりむかず、先を考えず、焦らず、一日一日を自分を守ることで、透析は一生続けることなので、憶病と勇気が必要である」と。（磯野由紀子「東腎協十年誌」より抜粋）



え・大森輝秋

昭和五十一年二月二十五日第三郵便物
SSKO通巻第八一四号（毎週二回）
昭和五十八年四月十五日発行

日・金曜日発行

総会議案を熱心に討議

第10回幹事会開く

第十回幹事会が、二月二十日、都障害者福祉会館で開催され三十九人が参加しました。今回の幹事会の議題は、第十一回総会に提案する議案を討議しました。



会議は、平沢副会長を議長に選出し、宝生会長が私たち患者をとりまく厳しい状況について

話した後、議事に入りました。

議事は、(1)報告事項―昭和五十七年度活動報告案、同会計報告案があり、拍手で確認されました。

次に、(2)討議事項―昭和五十八年度活動方針案、同予算案が提案されました。その中の特徴は、長期的目標が明らかにされたことです。各種の施策が都から区市町村に移管されて都ばかりに要請しても仕方がない。自分たちの居住する区市町村に働きかける必要がある。そこで都内を四〇五ブロックに分け、きめ細かな運動にしていこうというのがその内容です。

質疑応答の中で「都立病院の透析医療の実態はどうなっているのか」「災害時の対策の状況はどうなのか」「臨調に対して東腎協の対応はどうするのか」などの意見が出された後、拍手

で確認されました。

次に昭和五十八年度スローガン、東腎協規約改正案、専従役員執務規定案、専従役員給与規定案、旅費規則改正案が提案されました。

この中の特徴は、五十八年度から半専従体制を敷くことです―週三日勤務、一カ月八万円の給与が提案されましたが、参加者の中から「これでは安い」という意見もありました。

最後に昭和五十八年度役員候補者の推薦がされました。

議事終了後、二月一日から透析医療費切り下げの影響について参加者から発言がありました。この人によると、今まで三つのメーカーのダイアライザーを使用していたが二つになり、機種変更によってかゆみや頭痛が透析中に起こるとのことです。また、東腎協十年誌の配布規準、配布方法などの説明もありました。

△おもしろ記事▽



- 第10回幹事会開く……………(2)
- 第11回総会に169人参加……………(3)
- 昭和57年度決算報告……………(4)
- 昭和58年度予算……………(5)
- 特別会計決算、予算……………(6)
- 会員さん訪問△17▽……………(7)
- 佐藤光子さん……………(9)
- たえこのひとりごと……………(11)
- 最近の新聞記事から……………(12)
- 仲間からのたより……………(13)
- 東腎協の半専従事務局長に……………(14)
- 森義昭さんが就任……………(14)
- 東腎協10年誌に反響……………(15)
- 事務局からのお知らせ……………(21)

専務局長の半専従体制など決める

東腎協総会に169人が参加

四月三日、東腎協第十一回総会が全国労音会館（千代田区西神田）で開催され、百六十九人が参加しました。総会は、提案された議案を採択し、新役員を選出して閉会されました。総会終了後、中川成之輔先生（東京医科歯科大学）による「新しい透析療法CAPD」の講演を行いました。

総会は、議長団として芦田法幸さん、栗原枝隆さん（ともに個人会員）を選出し、議事に入りました。

宝生会長のあいさつ、全腎協上田会長のメッセージ（小林常任幹事代読）、米寶の池田梅夫氏（日本共産党都議）から激励、連帯のあいさつを受けました。また、大室政右氏（都議会自民党幹事長）榎井武氏（都議会民主クラブ幹事長）をはじめ都関係、他団体、県腎協などから多数の祝電・メッセージが寄せられ、紹介されました。

引き続き報告事項があり、東腎協結成十周年という記念すべき一年間の活動が報告されました。

この中で、腎パンク拡大街頭キャン

ペーン、国会請願署名・請願、ニプロ問題、十周年を記念した『あゆみ』の発行等々、今までにない活動、成果が報告されました。

昼食・休憩の後、午後からは今後一年間の活動方針、予算、スローガンの提案、採択を行いました。

この中で強調された点は、受益者負担の原則がますます強く押し出され、透析医療の分野へも影響が及ぼされる心配があること、また、今年度から初めて事務局長を半専従制（週三日勤務）にして活動を強化することで、そのための予算措置、規約の一部改正も提案、採択されました。

<役員紹介>

会 長	宝生和男（ニレ友の会）
副 会 長	泉山知威（個人会員）
〃	一ノ清明（フェニックス会）
〃	高橋勇二郎（西新井病院）
〃	平沢三吾（こぶし会）
事務局長	森 義昭（人工腎臓虎の門会）
事務局長	加藤 茂（代々木病院）
会 計	石川勇吉（ニレ友の会）
常任理事	池井 弘（人工腎臓虎の門会）
〃	糸賀久夫（松和患者会）
〃	小川康利（北多摩病院）
〃	川下俊之（大橋クリニック）
〃	木村妙子（上野しのばず会）
〃	草間和男（ニレ友の会）
〃	小泉佐内（杏林腎友会）
〃	小林孟史（代々木病院）
〃	佐藤藤次郎（豊生会）
〃	林田洋子（北多摩病院）
〃	矢口裕一（南千住クリニック）
〃	矢島雅昭（吉祥寺クリニック）
〃	柳 光夫（大山中央腎友会）
〃	和田雄二（大和病院）
〃	石川みさ（三軒茶屋病院）
〃	窪田一恵（三軒茶屋病院）
〃	時左千夫（和泉クリニック）

昭和57年度決算報告

自 昭和57年3月 1日
至 昭和58年2月28日

(単位:円)

	科 目	金 額	摘 要
収入の部	前期繰越	998,241	
	会費	6,211,600	年初会員数2,252人、年度末2,543人
	寄付金	387,600	都職労200,000、扶桑薬品150,000他
	雑収入	353,531	預金利息
	合 計	7,950,972	
支出の部	会報費	824,180	機関誌4回発行、延10,800部
	通信費	416,920	機関誌発送13回、電話料6,188他
	印刷費	187,178	報告、資料、封筒他
	総会費	297,720	議案集169,000、講演謝礼30,000他
	会議費	299,640	常任幹事会、幹事会、10年誌編集会議等
	旅費交通費	787,160	役員活動費
	人件費	778,100	アルバイト職員手当、交通費
	事務所管理費	240,000	月当り20,000×12カ月
	備品費	0	
	事務用品費	60,194	事務用消耗品等
	雑費	58,331	慶弔費5件35,000他
	小 計	3,949,423	
	諸会費	2,952,475	全腎協、東難連、身定協
	予備費	129,620	腎提供者拡大全国統一街頭キャンペーン他
	小 計	3,082,095	
合 計	7,031,518		
	次期へ繰越	919,454	

昭和57年度会計監査報告書

私たち監査は、東京都腎臓病患者連絡協議会の昭和57年度の決算報告書、すなわち現金、銀行預金、元帳、経費明細帳等について監査し、その結果、すべての経理処理手続きは、公正、妥当と認められました。

昭和58年3月30日

会計監査 武 富 正 治 印
 同 山 田 誠 印

昭和58年度予算

自 昭和58年3月 1日
至 昭和59年2月29日

(単位:円)

科 目		金 額	備 考
収入の部	前期繰越	919,454	
	会費	6,240,000	会員数2,600人×2,400円
	寄付金	320,000	扶桑薬品他
	雑収入	200,000	預金利子他
	特別会計より	750,000	
	合 計	8,429,454	
支出の部	会報費	898,000	機関誌3,300部×4回
	印刷費	250,000	報告、資料、封筒、コピー用紙等
	通信費	420,000	機関誌、報告発送、電話料等
	総会費	400,000	議案集印刷代、講師謝礼、会場費等
	会議費	400,000	全腎協総会参加費用、常任幹事会等
	役員活動費	370,000	都庁要請、役員活動費用
	事務所費	300,000	月当り25,000×12カ月
	人件費	1,120,000	半専従職員手当80,000×14
	アルバイト費	678,000	アルバイト職員、臨時アルバイト料等
	通勤交通費	159,000	事務局長、アルバイト職員通勤費
	事務用品費	60,000	事務用消耗品費
	雑費	60,454	慶弔費他
	諸会費	3,134,000	全腎協、東難連、身定協分担金
	予備費	100,000	
退職積立金	800,000		
	合 計	8,429,454	

昭和57年度特別会計決算報告

自 昭和57年3月31日
至 昭和58年2月28日

I 収入の部

1.	前期より繰越	4,511,000
	内 訳	
	昭和51年～54年繰入	2,870,498
	昭和55年度繰入額	926,517
	昭和56年度繰入額	713,985
2.	昭和57年度国会請願募金額	1,564,275
3.	10年誌(あゆみ)販売収入	14,000
	合 計	6,089,275

II 支出の部

1.	全腎協上納額	424,916
2.	国会請願参加者費用	51,000
3.	通信費(振替手数料他)	36,530
4.	10年誌(あゆみ)発行費	1,135,600
5.	同上発送費用	470,800
6.	大和病院透析友の会(56年度募金返戻金)	13,950
	合 計	1,709,076

III 次期へ繰越

4,380,199

昭和58年度特別会計予算

自 昭和58年3月1日
至 昭和59年2月29日

I 収入の部

前期より繰越		4,380,199
合 計		4,380,199

II 支出の部

1.	一般会計に繰入	750,000
2.	通 信 費	40,000
3.	旅 費 交 通 費	60,000
4.	腎臓提供者拡大キャンペーン費	100,000
5.	雑 費	30,000
	合 計	980,000

佐藤 亮 子さん

東腎協には約二百人の個人会員がいる。東腎協と個人会員をつなぐパイプは機関誌ぐらいしかないが、中には事務局へ時々身近な便りをくれる。私は、その中に二十四歳で通信制高校に学び、学校の文化祭で腎キャンペーンをやった、等々の便りをくれた佐藤亮子さんに興味を感じた。一体この女性はどのような人だろうかと、思い、いろいろ聞いてみてもおもしろいなという気持ちになった。

発病は五歳の時

住所は江戸川区です。

— まず初めに生年月日を教えてください。

昭和三十四年（一九五九年）三月十六日、都立の墨東病院で生まれました。現



総会に参加した佐藤さん

そして、その後は。

発病したのは五歳の時です。その時は、近所の医院へ通って一カ月程で治ったようです。ところが、その後まったく検査をしなかったのです。お医者様にも何も言われていなかったそうです。

それで再発に気が付いたのが小学校三年生の時でした。医院からもう少し大きな病院に移り、それでもはっきりしたことを言ってくれなかったため、母が人づてに現在通っている病院（聖路加病院）のことを聞いてやって来たのが四年生の時でした。外来で先生に「すぐ入院して

調べましょう」と言われ、入院し、検査をして三カ月半位で退院しました。病名は慢性腎炎。体育の授業は見学し、あまり疲れないようにすること、特に塩分の多い食品は食べないこと等を条件に復学も許されました。

中学三年生になって高校入試の受験勉強の無理がたたって腎不全になってしまいました。自分の病気のことをほとんど忘れていたのです。入院を繰り返して一年程（家にいたのはほんの少し）でした。透析が必要になったのは、十五歳の二月（一九七四年）でした。全身がクイレンしてしまい、その翌日腹膜透析を開始しました。

血液透析の設備の関係から慈恵医科大学へ移り、シャントの手術を受け、血液透析を始めたのはその年の六月でした。その頃は、ダイアライザーはコイルを使って週二回八時間という透析を行なって

いました。

当時のことを思うと、今の透析はとて
も楽ですね。二年間位は入退院を繰り返
していました。

その後、また聖路加病院に戻り、しば
らくして週三回の透析になりました。ダ
イアライザーは、ホロファイバーを使い、
時間が短縮されました。

文化祭での腎キャンペーン

——通信制高校へ入学したのはなぜ？
通信制高校へ入学したのは、両親の協
力があつたし、主治医の先生にも高校へ
通りのを勧められたからです。それと、
私自身も学校へ行きたかつたからです。
もっと自分の世界を広げたかつたのです。
普通科へ入ったのは、まだ自分の進路が
定まっていなかつたからです。

——学校の文化祭で腎キャンペーンを
やつたそうですが……。

学校の文化祭（昨年十一月）で腎キ
ャンペーンをやったきっかけは、やはり
機関誌で多くの方々が頑張つてキャンペ
ーンをやっているのを知つたからです。
私も出来るだけ御協力出来たらと思いま

した。

それと、キャンペーンを行なうのに学
校の文化祭というのは、とても良い場だ
と思うのです。いろいろな意味で。キャ
ンペーンといつても特に大変なことをし
た訳ではありません。腎臓病のこと、透
析のこと、腎移植のことを一般の人々に
知っていただけるだけでもいいという気
持ちでやりました。ポスターや透析、腎
移植のことを説明した用紙を中央に貼り、
病院でお借りしたダイアライザーと透析
用の針、写真を展示し、腎移植登録の申
し込み用紙と署名用紙、募金箱を用意し
ておくという方法です。

これには学校の生徒会の友人達が協力
してくれて、心強い思いでした。クラス
メイト、その他の知人、学校の先生のと
ころへは一人ひとり回つて署名を頂きま
した。反応は、友人や御自身病氣をした
ことのある方、身近に病氣の人を知つ
ている方は、どなたも親切に協力をして
下さいました。

また、署名を呼びかけますと「自分の
身内に腎臓病の人はいないから……」とお
ことわりになる方もありました。興味を

持つて下さる方、ぜんぜん無関心な方の
二者に分かれるみたいです。

もつと雇用の機会を

——現在、私たち患者の置かれていま
る状況は非常にきびしいと思ひますが……
現在の社会状況は、透析患者にとつて
なかなかきびしくなつて来ていますね。
ですから患者一人ひとりの自覚が大切な
のだと思ひます。

透析を行なつて生きていける……そして、
それを社会に還元する。その還元の一つ
として働くということがあるわけですか
ら、多くの人々に透析のことを理解して
いただいて、透析患者にもつと雇用の機
会をつくつて欲しいと思ひます。そして、
その為にも私運一人ひとりが運動してい
かなければならないと思うのです。（も
ちろん、その為だけにではありませんけ
れど）

無理をせず地道に多くの人々の努力が
必要なのだと思います。自己管理をしつ
かりして、透析をスムーズにすることが
まず第一歩でしょう。

——日常生活などを。

私の生活は、月水金曜日に行なり五時

間の血液透析から成り立っています。朝、病院へなるべく早く行き、透析の準備を出来るだけ自分でします。そして、自分で穿刺をします。もちろん、看護婦さんに介助して頂いています。透析が終わると、帰りは買ひ物をしながら家へ帰ってきます。

学校のスクーリングは、月に二、三日曜日に行なわれます。一時間七十分の授業をお昼休みをはさんで四時間受けます。

その他、ふだんの日には自分の身の回りの事(掃除、洗濯など)、毎食の自分の食事をつくること、学校の勉強をしたり(三日に一通ずつレポートを提出する)、友達と会ったりして過ごしています。暇なように、私なりに充実した毎日です。

— 趣味等あったらどうぞ。

趣味は、読書と最近習い始めたソニアダンスです。ダンスは週に一度ほど練習に行っていますが、楽しいし、良い運動になるので他の方々にもお勧めします。

— 今後、何か抱負とか夢があったら聞かせて。

これからの抱負

今、私には働きたいと思っている職場が一つあります。そこは友人が働いているので知ったのですが、あるコーヒー店(喫茶店)です。

どんなお店かといいますと、足の不自由な方もわざわざ車イスに乗って、このお店にくつろぎにいらっしゃるというお店です。このお店でぜひとも働かせて頂きたいと思っています。

そして、今まで私を支えて下さった方々と同じように私自身も誰かの支えになること—それが私の夢です。いつか、そんな自分になれるように努力していきたい



いと思っています。

最後に今まで私を支えてくれた両親、友達、病院のスタッフの方々、等々数え切れないほど多くの人々に助けられて生きて来ましたが、これらの方々にお礼を申し上げたいと思います。

「本当にどうもありがとうございます。そして、これからもどうぞよろしくお願い致します」

私と同世代のこれから社会に出られる透析患者の方々へ

「透析をしながら学校を卒業し、働く機会をみつけるのは大変だと思いますが、いつも希望を持って明るく頑張ってください」と訴えたいと思います。

東腎協総会のあったこの日、総会終了後、国電水道橋近くの喫茶店で三時間余りもしゃべってしまいました。会って話をしたのは初めてだったが、とて十年余も透析を受けてきたと思われぬ程、明るくさわやかな印象を感じた。「自分にてきることを何かしたい」という今の気持ちを今後持ち続け、当面は通信制高校を必ず卒業されるように頑張ってください。

(きき手・加藤)

このえ ひとりごと <1>

常任幹事・木村妙子

はじめに

私達透析患者は、隔日(一日おき)に血液を言葉を変えていえば洗うことになって生きている。もちろん老廃物を除去するためであるが、データ上には表れない物質も透析されるらしい。アメリカで精神分裂病の患者に透析を行うと病状が改善されるというニュースを週間誌のコラム欄で読んだことがある。こういう血液がめぐっている脳細胞で世間の事物を考えれば、透徹した見方が少しでもできるのではないか、そんな視点でいろいろなことに迫ってみたい。

先日、「透析ライフ」(八三年春季号)で十年以上の患者の特集を行っていた。

皆それぞれ一種の透析訓というか人生訓をもって生きていらっしゃることがわかった。まるで宗教家か、高僧のように。これはなぜかという、昔の透析患者は死に直面せざるを得なかったということであろう。

よく世間で頭のかたい保守派が、徴兵制復活の理由として、男が一人前になるには軍隊でしごかれなければなどというが、これは誤りで、死線をくぐるということが人間を一人前にするのである。

戦争はいやが応でも、人間を死に直面させる。もともと、戦後、生き残った人々が皆、透徹した人生観を身につけてくれたら、こんな社会にならなかつただろうから、誰でもが死との対話をそれからの人生の糧とすることができるとは限らないようだ。

透析の現実をみつめ

強く生きぬく決意

透析患者にもそのことはいえる。人と違つた特異な体験を生かすも殺すも、死との直面の深さにあるような気がする。

でも、せっかくなんか苦しさを味わつたのだから、下世話でもいいが、転んでただ起きたのではもったいない。末期の眼でみれば、空の雲も春の風も小さな木の芽も、あけていけばいきりがないが、すべてが色鮮やかに生きている。

そして、人生のトラブルも卑小なことには考えられ、健康な人々がつまらない俗事に欲望をたぎらせ、イライラと歩き回っているのに、なぜ、一步視点をずらして物事を考えられないのかと哀れにみえてくることもある。

健康者のなかにもこのような透徹した目を持つ人はたくさんいる。反対に透析者のなかにも、まだまだ煩惱を去れない人がかえって多いかもしれない。

煩惱を去るといっても、なんでもよいということではない。生き残りの人生をどれだけよりよく生きるか、各自が思いを尽して、自分の道をみい出さなければならぬ。

動けない夫は少しでも妻の手助けをできるより。家事が満足にできない主婦は暖かい心で夫に慰めを与えられるより。元気な人は、他の患者が少しでも安心し

てよい治療を受けられるように患者運動をする。等々、いくらでも、身を尽くす場はみつけれられるのではないだろうか。

新しく透析に入られた人々は、あまり苦しみを味あわないうちに導入され、かえってこれからの人生にどう取り組むか、迷ってしまうのではないだろうか。

しかし、一日おきに透析をしなければ生きていけない現実が皆、同じである。それを梃子(てこ)として、強く生きていただきたい。



10年前に

安楽死を願ったが……

さて、最後に御参考になるかならないか、個人的体験を公にするのは、それが読まれる第三者にとっては、大体つまらないものと決まっているが、あと少しどうしても原稿行数を埋めなければならぬので、お氣が向いたら読んで下さい。

三年間の辛い食事制限の内科治療の末尿毒症。

「あなたは世帯主ではないから透析を受けられる確率は少ない」と言われ、安楽死を願ったが、透析病院へ担架で運びこまれ、即腹膜灌流を一昼夜ぶっ通しで受け、灌流を受けながら外シャントの手術を受けた。一週間透析室から動かせない状態で、やっと病室に運ばれた夜、四十度の熱と高速度道の騒音に頭ががしかくなったのか、外シャントをみていたら死にたくなった。

包帯を解いてガーゼをはずしたら母が目を見まし、隣室の患者が先生を呼びに行ってくれた。私は、両手をベットにしがりつけられ、多量の睡眠薬を打たれて、ヒクヒクする頭の中で、ああこれで生きなければならぬと思いつつ眠り込み、翌朝から十年と半年余り生きてきた。

最近、こんなに長生きするから、あんなにチャホヤとするのではなかった、などと家族にボヤかれ、エヘへと笑って、老後のことも考えなくちゃなと、言っている。



最前線でいま

サラリーマンの月給の三、四倍はかかる。金の切れ目が命の切れ目。毎年一万人が「税金さえあれば……」と無念のことはを残して死んでいった。

足りない人工透析器

一九七七年、健康保険がきくようになつた。だが健康本人以上の人は三割五割の自己負担に耐えられ、死んでいった。一九七七年未だ、その自己負担分も国や自治体が大幅に肩代わりしてくるようになつた。金の切れ目が命の切れ目の時代は、終わつた。

しかし製薬が、どうにも足りない。「先生、私死にたくない」と受話器をにきりしめて泣きました。順番を待つて

いるたれかを押しつけなければ、自分はおかしくない。つらかったと東京・板橋の主婦玉置子さん(50)はいう。一九七四年のことだ。

転進した合繊企業

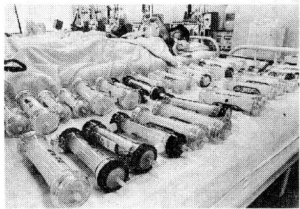
このころ、医療とは縁もゆかりもなかつた企業者が「人工腎臓」に目をつけていた。旭化成、東シ、クラシ、帝人、い

ま、日米経済摩擦といえは自動車だ。しかし十年前の主役は繊維だつた。輸出先の米国から締め出されたろ韓国、台湾など中進国から追いあげられた。そして人工腎臓に専ら

を託した。合繊メーカーがこの分野に強かつたのは、わけがある。人工腎臓のなかめは、血液の中の汚れた成分をこし出し、大切な蛋白(たんぱく)質や赤血球は通さない膜である。当時はセロハンな

を使っていたが、これはと、製薬の大企業は電機洗機機はになつてしまつた。しかも、余分な水をしぼり出すことができない。

「二日、コップ一杯足すの水しか飲んではいけないのです。それが、どんなにつらいか。心臓に水がたまり、透析中



腎臓病患者の透析に使われる「人工腎臓」。体重などで人によって大きさが違う

「人工腎臓が必要の人」が除害され、老廃物がからにたまること、むくみ、呼吸困難、心不全、けいれん、意識不明と進み、これが絶つて死んでしまつた。慢性糸球体腎炎、エフロレのよきな腎臓の病気がたけでなく、最近高血圧、糖尿病、痛風などがもとで腎不全となり、人工腎臓が必要となる人がふえていく。

専門メーカーを圧倒

水のは量は五百匹になつた。なちまち売りが伸びた。医療機器専門メーカーをけらして、五年後シニア五〇%を超え、現在は九〇%。「衣料から医療へ」の戦略は成功した。輝子さんの透析回数は一ヶ月を越え、ベイチエツト病で全盲の身だが、婦長さんから新しい患者を助ます係をたのまれている。毎週三回、午前九時から午後一時まで、病院で透析を受ける。

合繊メーカーは、直接○人工腎臓の性能は止の腎臓とはまたたがらがある。輝子さんは、「二日一日を大事にして過ごします。寝ていながら死なない、それでいい」。

人工腎臓を命をつないでいる人は、日本でも四万八千人、毎年四千人ずつ増え続けている。(科学部医療取材班)

衣料と医療

人工腎臓、正式には人工透析器。血液を腕の静脈からパイプで再び静脈に送るために洗つたうえで、再び静脈に戻す。本物の糸、赤血球製造に必要な物質や血圧調節物質をつくつたりするが、「人工」の方は、まだそこまでできない。

一九二二年に米国で誕生、四十数年後日本にも上陸した。しかし「高根の花」だった。一カ月間の透析代が、ふつろの

ゆるやかな日々

透析の始まり

午前9時30分

東海病院

桃木 幸男

朝の九時三十分、世の中の健常な人には「さあ、これから夕方まで今日も頑張るぞ」と仕事に意欲を燃やして、一日の素晴らしい時間でしょう。

私達透析を受ける者にとっても貴重なまたきびしい生との闘い、スタートである。今日も無事で終わるからちょっとびり不安のきざしが頭の中を横切る。もうテクニシャンは準備完了を済まして、九時三十分を待っている。

担当のナースが近寄って来る。いよいよ戦闘開始である。九時三十分、GOのサイン。今日の血圧は130/80でまあまあ状態である。

透析者にとっては、正常のことであっ

てもどこかに思いがけないアクシデントが起きることがある。サーカスでいえば綱渡りである。医者とナースそしてテクニシャンと患者との息の合った連携プレーがなければ、綱渡りもブランコも出来ない。看護婦のNさんがテクニシャンのDさんと近寄って来た。腕を酒精綿で消毒していよいよ穿刺する。シャントがびくびく息づくようにみえる。

動脈より最初の血液が回路を色どるとくモニターに向かって流れていく。そして、今日もわたくしの血は、熱い思いと願いがこめてダイアライザーを赤く染めて美しく、白一色の病室の中でバラの花片のように浮かんでいる。そして長い回路の旅を終って静脈にいいそと洗礼を受けたマリアの如く清らかな明日の生命の灯のように光輝やき、わたくしの百五十五cmの体の中に小さな魂となって体の隅々まで駆けめぐる。

その喜び、そして明日への生命の執念はとばしる夢と希望。それもこれもふりかえってみれば、朝の九時三十分が始まることなのです。そうです。わたくしにとって、この時間は大事なのです。どん

なことがあっても、一週間に三回は通り抜けられない宿命の時間なのです。

なぜならば、明日への希望が持てるのもこの時間だけです。九時三十分、雨の日も嵐の日も昔の言葉ではないのです。槍の雨、血の雨が降ろうとわたくしはベットの上で今日も横になって時間の終わるのを待っています。

五時間頑張るぞ、いや分に直したら五時間は三分だ、いや秒に直したら一万八千秒だ。時間との闘いは、明日への生命の闘いだ。皆様も時間との闘いに頑張ってください。時間は間違いなく動いてます。血液も動いてます。時間に負けずに頑張りますよ。

2月2日の

国会請願に参加して

吉祥寺クリニック腎友会

合田 晃

午前十一時〜正午頃の集会時に議員諸氏が会議室にいらっしやっして下さいましたが、自己紹介や決意表明等なされた後すぐないしはちょっとたって退席してしまいました。

集会の核心ともいえる。患者の実情報告、意見表明の項には退席してしまっている本会の透析患者の訴えや実情が分かってもらえないのではないでしようか？ やはり立ち合ってもらい、聞いてもらって分かってもらうべきではないでしようか？ まあ後で班を組んで議員訪問をした時にそれぞれその場で訴えや実情を伝え、お願いですからそれでもよいのでしよが…。

全腎協・東腎協から日当各千円（計二千円）と弁当代、交通費が出ましたが、

中、遠距離の方で宿泊等なさる方は別として近距離の方は日当などいららないのではないでしようか。各患者会ともその月（国会請願などの会合等）に出られる人が極力出ていますので。

そのお金を全腎協、東腎協の本来の活動（例えばポスター、パンフレット等の作成、はち巻き、垂れ幕等の作成や役員等の活動費、給与等）や他団体（全難連、全患連）との活動資金や募金等に使ってよいのでは。

まあ、仕事を休んで来られる方もいらっしやると思いますが、自分自身のた

めの運動、会合、集会ですのて年一回、二回位は都合をつけては…。それでも、やはり仕事を休んで来られる方には日当等は必要かもしれませんが…（実際問題として）。

集会時の患者の生の実情報告、意見表明は聞いていて胸を打たれ、他施設の実情、意見は自施設との比較や点検によって改めて自施設の当会活動の問題点としてとらえたり、良き所は維持、推進し、悪しは改良すべきこととして考えられ有意義なことです。

また、東腎協の活動報告や腎不全対策の実情や問題点も聞けて、ないしは話してあえて有意義でした。

あなたも一度
原稿をお寄せください



東腎協では会員の皆さんからの原稿や情報やお便りを待っていますので、ふるって事務局へお送り下さい。

なお、匿名希望の場合でも送る時には必ず住所、氏名を明記して下さい。長い文章の場合は短くすることもあります。

- 自分の闘病体験
- 詩・短歌・紀行文
- カット・写真
- 患者会の催し

<送り先>

〒161 新宿区下落合3-19-29

田沼ビル

東腎協機関誌係

透析10年を機に
始めた求職運動

匿名希望

我々透析者にとって、新たに職を得ることが至難の業とされているのは御存知の通りです。透析を始める前に退職した私も痛い程それを実感してきました。昔

通の就職はできませんので、臨時の仕事
を新聞広告で捜して、あちこちと渡り歩
いてきました。職場不定では大変不安定
な生活にならざるをえません。若いうち
はともかく、年も年ですから、ちゃんと
した就職ができるとすれば今を置いてな
いと思われしました。透析十年を目前に
してきちんと定職を決めて、これから先の
十年間を目標せうとも考えました。

週に一度の安定所通いを始めました。
昨年の春から暮れまで、紹介してくれ
うち面接にまでいったのが五、六社、新
聞広告の障害者求人に応募したのが二社
ありましたが、いずれも不採用でした。
時々、やはりだめかと放りだしたくなり
ましたが、諦めず求職運動を続けました。
今年の二月、上野安定所の主催で身障
者の就職相談会が開かれ出席しました。
年令制限をオーバーしていましたが、A
社の担当者と面接しました。履歴書をも
とに、経歴、趣味、希望職種、希望月収
等をきかれました。私の方からは、でき
れば透析日は四時頃退社したいと話し
ました。

一週間後、来社するより連絡があり、

人事課長の面接を受けました。この時は
事務部門にはこういふ仕事がある、その
中でどんな仕事ができるのか、またやっ
てみたいのかという内容でした。面接が
終る前に、私の方から健保は国民健保の
ままにしたいと申し出ました。この時点
では、透析医療費が莫大な額にのぼるこ
とを認識していないようでした。

更に、専務と人事部長による三度目の
面接を受けました。この時、夜間透析し
た翌日の午前中は身体がきつくなると話
しました。結局、次の条件で採用となり
ました。

(1)透析日火・木・土は四時退社、翌日
は十三時出勤(2)健保は国民健保のまま(3)
雇用契約一年等、不完全な就職におわり
ました。いわゆる正社員としての就職は、
健保の問題が解決されねば依然と困難な
ままです。

しかし、以前と違って安定所では身障
者専門のスタッフを増やしています。ま
めに窓口を訪れ、相談会にも参加し辛抱
強く運動していけば、なんとか道が開け
ると思います。就職運動に際し、一ケ
スとして参考になれば幸いです。

賢友会だより

伊豆長岡へ

イチゴ狩り旅行

西新井病院

三月六日(日)、快晴。風もなく暖か
く、絶好の行楽日和。朝八時に西新井病
院前を出発したバスは、東名高速を伊豆
長岡に向かって快調に飛ばした。

参加者は、会員三十、家族十七、医師
一、栄養士一、計四十九人の大所帯。

右手には、真白に雪化粧した富士山が
すっきりと見え、バスの中は、すでにカ
ラオク大会で盛りあがっていた。

いつもムードを盛り上げてくれるIさ
んの演歌を始めとして、新婚の栄養士夫
妻による、甘い甘い「銀座の恋の物語」
のデュエット。その甘さに当てられ、少
々やけぎみの私の「星影のワルツ」。そ
の他、男性群中心の美声が続いた。

十一時。目的のいちご園到着。

いちご食べ放題の期待とカリウムの不
安で、胸ワクワク、ドキドキ畑に入る。
なあんだ、渡されたミルクがカップの
底に小さじ一杯。五、六個食べたら、ミ

ルクがなくなつた。がっかりするやら、ほっとするやら、それでも二十個も食べたツワモノもいたとか。

十二時。昼食付休憩所、ホテル「月光園」に入る。

通された宴会場に入ってびっくり、並べられた料理がデラックス。船もりの生づくり、鍋物を中心にソバ、テンブラ、エビ、ビール等々と夜の宴会そのもの。

先生の音頭で乾杯!

またまたカラオケ大会。



温泉にも入って、二時半まで宴会続行。飲んだ水分、しめてジュース五十本、ビール十本、日本酒十本、氷五杯。

二時三十分。ホテル出発。途中「ひものセンター」にて、みやげ物買い出し。あとは一路東京へ。

ここで眠ってはならじと、幹事苦心の「じゃんけん大会」。各自に配られた三枚の一万円券を、お互いにじゃんけんを取り合うゲーム。一斉に始めて、次々に相手を変え、二十枚集まった所で景品と取り換える趣向。小さな子供まで参加できて、どつとにぎやかになった。

次に「連想ゲーム」

座席の前の人から次々に耳打ちで連想したことを伝えていく。最初は「カッドン」で、最後に「ハダカ」になった。

改めてその種明かしをしてみらうと、

「カッドン↓ウナドン↓ドンブリ↓……
↓コオリ↓トケル↓コオリ↓ツメタイ↓
……↓ジュース↓コーヒ↓アツ↓ウ
ドン↓……↓コンプ↓アマサン↓ストリ
ップ↓ハダカ」。なんのことはない、八十男が今食べたい食べ物だった。

最後に、若くてかわいいガイドさん、

新米だけど一生懸命。ガイドのお株を奪われてはならじと、奥の手を出してきた。「ぼくにも弾けた。ヤマハ。ポータ。サウンド」。例の電子オルガンである。「春が来た」他三曲。美しい演奏にすっかり魅了された。

ここまでは大成功。五時半には東京に着く予定だった。

しかし、車は四時半に海老名サービスエリアを出てから、大渋滞に巻き込まれた。三月に入って初めての日曜日で絶好の行楽日和。そこにきて、首都高速道路の用賀付近にて道路が陥没する事故発生。全面閉鎖になったとのこと。

川崎から一般道路に出たが、まったく動かない。渋滞十キロ、水をなめなめ持久戦。アイスボックス一杯用意してあった氷も底をつくほどだった。

夜八時になっても、まだ多摩川を渡れずイライラ。病気を知らないガイドさんは、透折患者が本領を発揮しているとは露知らず、「トイレは有りませんで、水分は控えて下さい」と悲壮を叫び。

それでも二人が我慢できなくなつて、パチンコ店の前に車を横つけてトイレに

駆け込んだ。普通の団体だったら、このパチンコ店の前に長い行列がきたらろ
うに。

西新井病院前到着、九時二十分。

長い一日で、思い出がたくさんできま
した。ほんとうにお疲れさんでした。

(高橋勇二郎記)

腎友会だより

吉野梅郷で

春の一日を楽しむ

代々木病院

代々木病院腎友会は、三月二十日(日)
春の日帰り旅行で奥多摩の吉野梅郷・玉
堂美術館をめぐる、患者、職員など二十
一人が参加しました。

この日は絶好の行楽日和、参加者は自
家用車、電車を使って青梅線二俣尾駅に
午前十一時に集合、吉野梅郷に向かいま
した。この辺は、あたり一面が梅の里と
いう感じで途中にも梅の花があちこちに
咲いていました。

行楽客も多く、のどかな山村は急に入

が何倍にもふくれ、活気ある街になっ
ていました。梅郷の花の下でしばらく観梅
したあとは、また駅に戻って二つ先の沢
井駅近くの沢乃井のままごと屋という料
亭で昼食です。創業三百年という小沢酒



梅の里・吉野梅郷で

読まれる機関誌づくりのために
皆さんの一層の協力をお願いします
機関誌「東腎協」を魅力あるものにする
ために、読んだ感想、また掲載して欲
しい記事、その他要望などありましたら、
気軽にお便りを下さい。今後の機関誌の
編集の参考にします。

造という会社の経営する店で、風光明媚
な御岳溪谷に建っています。

出された献立の中身を紹介すると「さ
け歳時記梅しほりたて／卯の花あえ／若
草どうふ／花弁当／お手玉がんと／小袖
むし／きびおこわ、果物」でした。

出された料理のどれもこれも味わいの
あるおいしいものでした。ぐい呑みの中
に梅の花を浮かべたしほり立ての酒が入
っていて、それをひと口飲んだ時の心地
良さはなんともいえないものでした。

昼食を終え、玉堂美術館へ向いました。
川合玉堂(一八七三〜一九五七年)は、
我が国を代表する日本画壇の巨匠。生き
とし生けるものが、自然の営みを等しく
受けて存在していることを教えてくれま
す。

私は、丹念に自然の動植物をスケッチ
した十五歳、十六歳の時の写生帳が印象
に残りました。

玉堂美術館をみたあと、河原に降り、
少し休んで御岳駅に向いました。青梅線
は、行楽客で超満員、やっとの思いで立
川に着き、中央線に乗りかえました。

(加藤 茂記)

東腎協の

半専従事務局長に

森 義昭さんが就任



四月三日に開かれた東腎協第十一回総会で、半専従の事務局長として森義昭さ

じわじわ反響が始めた

東腎協10年誌『あゆみ』

昨年从今年にかけての十カ月間で書き上った東腎協十年誌『あゆみ』は、会員はもとより他界腎協、都庁関係、友好団体などに配られました。少しずつ反響が始めています。

『あゆみ』の構成は、第一章「十年を

んが就任することになりました。

森事務局長は、人工腎臓虎の門会の所属。現在、虎の門病院のサテライトである高津中央病院で透析を受けています。

今までは、室内装飾の設計技師として仕事をしていたが、東腎協の役員として活動するようになって以来、運動の大切さを身をもって感じるようになり、専従役員として就任する決意に至りました。

当面、月・水・木の週三日間、事務局に出勤する予定です。

森さんの話「私たち患者は、医療や福祉など多くの人々の援助を受けて生活し

振りがあって」ー全腎協上田会長、泉山、平沢両副会長、石川会計の四氏がそれぞれ立場からこれまでの運動の断片を綴ったもの。第二章「座談会・女性にとつて透析とは」ー石川みさ、木村、林田常任幹事が自らの体験の中で、女性にとつての東腎協運動とは、などを論じたもの。第三章「腎臓病とたたかいつづけて（会員の手記より）」ー二十二人の会員が腎臓病との闘病体験を綴ったもの。

ていますが、私たち患者も地域や職場で多くの仲間が社会に貢献しています。私も東腎協の運動を通じ、少しでも皆さんの役に立ちたい、社会に役立ちたいと考え、このたび専従役員を引き受けることを決意しました。

このところ、私たち患者をめぐる状況は、非常に厳しいものがあります。私たち一人一人が問題意識に目覚め、自分たちの環境は自分たちでよりよいものを作ればいけないと考えます。皆さん、よりよい医療と福祉のため共に頑張りましょう。」

これを読んで胸が熱くなったとの感想も寄せられています。第四章「東腎協の主な活動」ー略年表、総会、医療相談会、請願署名などが表として掲載。特別資料「東腎協実態調査」ー昭和五十六年十月に実施したアンケートのまとめ。以上が主な内容です。

会員外の人には、有料（送料共五百円）でお分けしますので、事務局まで連絡して下さい。

事務局からのお知らせ

身障者の別枠採用

透析患者が4人合格する

昭和五十七年度の都・区の身障者の別枠採用選考の結果、都十五人、特別区五十四人が合格しました。競争率は、都七・五倍、区三・四倍でした。

東腎協の調べでは、透析患者が四人合格していることがわかりました。

58年度の会費を

納入して下さい

東腎協第十一回総会も終了し、昭和五十八年度の活動も既に三月より開始されています。東腎協の会費は、年間二千四百円(全腎協分を含む)で、年度初めに納入していただいています。各腎友会、個人会員の皆さん、昭和五十八年度の会費を納入していただくようお願いいたします。(すでに納入済の方は除きます)

なお、今年度より、十月一日以降入会の場合、その年度の会費は千二百円でよいことになりました。

昭和五十一年二月二十五日第三郵便
SSKO通巻第八一四号
昭和五十八年四月十五日発行

また、皆さんの身近かに東腎協に未加入の人がいましたら、ぜひ加入の訴えもしていただけるようお願いいたします。(入会案内は、事務局にありますので、連絡があれば送付します)

会費の送り先

郵便振替口座

加入者名 東腎協

現金書留の場合は

〒161

よろしく

お願いします

(十一月〜三月)

(個人会員)

大西徳忠、横井容子、中村和子、聖川恵美子、松田弘、田代安子、石坂幸司、泉山知威、荻原晃、生田典子、谷岡祐輔、渡辺善一、大野秀男、多賀一浩、宇山勇、近藤寿一、菅原辰夫、野口謙太、松山加代、宮本里子、伊藤洋子、中村知子、鈴木波之助、大浜洋子

全腎協国会請願募金

追加で納入されました

№45でお知らせした集計報告の後、次の会、個人会員から追加して募金が入金しました。

城南クリニック腎友会

一、〇三二円

松和患者会四ツ谷支部

一〇、六三〇円

個人会員

一、五〇〇円

なか、月島病院腎友会は中島病院腎友会の誤りでした。

全腎協総会は仙台で開催

全腎協第十三回総会は、五月十五日に宮城県仙台市で開催されますが、東腎協からは数名の役員を派遣する予定です。

編集後記

老人保健法への批判が日ごとに高まっているという。今後、透析医療の分野へもこのようなものが実施されたらどうなるのだろうか、と思うのは私だけではないだろう。

機関誌を担当して八年目に入る。そこで私自身への自戒の言葉を肝に銘じて頑張っていきたいと思う。

「運動とは続けることだ」

(加藤)

発行所

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧八一二―三
頒価百円